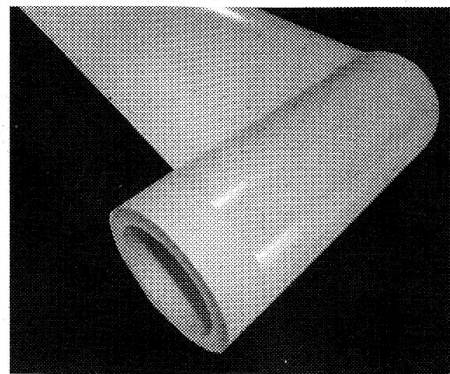


管業 紙業 新製「タツクハイコア」
日本 日工 水分付与で粘着性発現

(大阪通信) 各種紙管製造の日本紙管工業(株)(大阪市旭区大宮一―一三、竹本拓央社長)は先ごろ、紙管表面に水を付けると粘着性を発揮する「タツクハイコア」(写真)を開発した。

表面が平滑でコアマーク(スパイラル痕)が軽減する「タツクハイコア」と、表面が一般紙管と同じタイプの「タツクコア」の二種類。どちらも内径は三センチと六センチ、肉厚五―一五ミリ、長さ最少一〇〇―最大二五〇〇ミリ。

①表面の必要な部分に粘着性を持たせることが可能②両面テープを剥がす手間が省け、ごみの削減につながる③両面テープの段差が解消され、フィルムに対する段差痕が軽減④シームレスタイプの表面仕上げも可能で、紙製品はもちろんフィルム製品にも使用可能―などの特長がある。



すでに日本での特許出願を完了しており、近くに国際特許出願も予定している。